



淡路島まつり参加

今年も「デフ・あわじふくろう連」で淡路島まつりに参加してきました。暑い中で汗を拭いながらも力いっぱい踊りました。観客席からはたくさんの拍手で溢れ、自然と私達も笑顔になって楽しむことができました。

ふくろう新聞

<発行>
 特別養護老人ホーム
 淡路ふくろうの郷
 広報委員会
 洲本市中川原町中川原28番地1
 TEL:0799-25-8550
 FAX:0799-25-8551
 ホームページ
<http://hyoufuku.main.jp/fukurou/>

平和を願って 未来へつなぐ

戦中の「産めよ増やせよ」の政策の裏で 生む権利を奪われた障害者たち

洲本高校で「人権について」講演 「障害者の強制断種の歴史事実」に衝撃

ふくろうの郷で暮らしている山崎榮子さんは、15年前、長崎平和祈念式典で「平和への誓い」を手話で述べた。8月12日の「淡路戦争展」に招かれ、原爆は恐ろしいと話された。障害者・高齢者などが生きられない、生きづらい世の中は優生思想が牙をむく。平和と安心の政治こそが優生思想克服の道ではないか。

洲本高校から講演依頼があり、大矢理事長、入居者の勝楽佐代子さん、神戸在住の高木賢夫ご夫婦が学校を訪問しました。勝楽さんは亡夫が受けた断種手術を、また高木さんご夫婦は50年間の沈黙を破り、親同士が決めた断種手術を受けさせられた体験を2年生200人余りの前で語りました。生徒たちは初めて聞く話に大いに衝撃を受け「戦後の歴史にこんなに醜い闇のようなものがあるのだと思った。ナチス・ドイツの話は前から知っていたが、その少なからずの影響が日本に届いていたとは知りませんでした。私たちは同情するだけでなく、その事実と向き合って、理解して二度とそんな悲しむ人がでないように」と動いていかなければならぬのだと実感しました。幸福追求の権利は私たちの中の当たり前を再確認させてくれる言葉なんじゃないかと思えます。」と2年生の福島萌世さん。

「今回の講演を聞いて、健康な人と障害者では色々な面で差別されていると感じました。「産めよ増やせよ」をスローガンとして国が掲げていた時期もあったのに、その裏では障害者は子どもを一人産むことすら許されなかったのです。またそのための手術も本人たちには無断という酷いものもありました。子を産めない代わりに人形を作ったという話は身につまされる思いでした。」と小松葉月さん。

ひとり一人が真剣にとらえ感想を寄せてくれています。優生思想は過去のことだけでなく、その後も「障害は不幸」として「不幸な子どもを生まれない県民運動」や「母体保護法」として行政主導の取り組みが繰り返されていることも忘れてはならないことです。(辻 愛子)

ふくろう物語

梅田喜美子さん

梅田さんは昭和16年、西宮で六人姉弟の三女として生まれました。現在77歳です。ご家族は梅田さん以外全員健聴者でしたが、父親から梅田さんの事を頼まれていたという姉とは特に仲が良かったようです。また、家族の誕生日にはいつも母親が赤飯や鯛の塩焼きを作ってくれたとおっしゃっています。

ろう学校・仕事のこと

小学部から高等部まで神戸ろう学校に通学しました。同級生は8人で、女の子が多かったそうです。ろう学校では洋裁を学び、ブラウスやズボンなどを作っていました。また、スポーツが得意で、部活では卓球・バレー・陸上の3つを掛け持ちしており、卓球の試合では2位を取る実力でした。スポーツ

を楽しみ、元気に過ごしたろう学校時代だったと言われます。

卒業後、三ノ宮にあるベビードレスを作る会社に就職しロンパースなどをミシンで縫っていました。

技術を身に付けて、仲の良かった姉と自宅で受け取りの仕事を始めました。姉が布を裁断し、梅田さんがミシンでズボンやスカート・ブラウスを縫うなど分業していたそうです。

結婚・出産・子育て

29歳の時に、ろう者のご主人とお見合い結婚をされた。



▲梅田さん(左) 仲良しの山崎さんと

ました。ご主人のことは「親同士が決めて結婚した。でも、心優しい人だった」と話されました。

結婚後は姫路でご主人と一緒に紳士服(スーツなど)の縫製で生計を立てていました。夏は暇だったが、冬はとて忙しく休む暇もなかったそうです。

子どもが生まれ、泣き声がかえらないので、夜中に何度も起きて様子を見ていたそうです。はいはいができるようになると、いつの間にかいなくなっていてひやりとしたこともあったようで、子育ては大変だったと話されます。夫はお風呂に入れてくれたり、散歩に連れて行ってくれたり協力的で、夫婦支え合い、寄り添って生きてこられました。

ふくろうの郷へ

ご主人が昨年に亡くなられ、一人暮らしを心配した娘さんからの相談で平成29年

工芸 ~作る喜び・働く喜び~

今年度4月から、お休みしていたふくろう工房の工芸を再開しています。入居者の特技を生かしながら製作しています。「生きがい」「働きがい」を持っていただければと考えています。

靴下ハギレを使った座布団作りは自分のペースで編んでおられます。編むことが難しい人は、職員と一緒に作っています。また、プラバンでふくろうのキーホルダーも作りました。

7月の「わくわくフリマ」で座布団を販売したところ、好評で10個完売できました。売上は入居者にお給料として支給され、入居者の方はとても楽しみに頑張っています。「ふくろうふれ愛まつり」でも販売します!。ぜひ手に取ってみてください!!



▲ふくろうキーホルダー



▲ハギレを色分けし、色をみながら編んでいきます

12月にふくろうの郷へ入居され、半年が過ぎました。ここの生活は「ろう者と手話で話ができるので、退屈しない」そうです。今後の生活についてお聞きすると「ずっと忙しくしてきたの

で、今はのんびりと生活がしたい」といいます。時々、娘さんにお会いしたり、住み慣れた家を見に行くことを楽しみにされておられます。(月川ユニット生活援助員)

厚浜芸能保存会踊り 七夕飾り作り (7/21)

厚浜芸能保存会の方々が、今年も七夕飾りと踊りの披露に来てくださいました。七夕飾りでは、入居者の方々が、願い事を思い浮かべながら、一生懸命、短冊を書く姿が印象的でした。

踊りでは「厚浜小唄」「炭坑節」などを披露いただき、踊りが始まると、入居者の皆さんは手拍子をしたり、輪の中に入って一緒に踊りを楽しまれました。



▲七夕の下で踊りの披露する厚保芸能保存会のみなさん



▲厚浜 カプチーノにて (7/14)

甘い物が好きな山岡省二さん。73歳の誕生日のお祝いのため、喫茶店に出かけ、ケーキとわらびもちを召し上がられました。ショーケースの中から好きなケーキを選び、いつもと違った雰囲気の中で好物を堪能されました。



▲「今年も元気である人と逢えますように」西内千鶴子さん

賑やかな雰囲気の中、皆さんの笑顔がたくさん見られるなど楽しい時間となりました。開所以来、毎年ご協力いただいています厚浜芸能保存会の皆さま、ありがとうございました。

(生活援助員 中村久香)

- ・「頑張ろう」澤田つや子さん (上)
- ・「ビールスキヤキ」石崎国廣さん (下)

♪♪ みんなで中川原ワクワクフリーマーケットに参加しました♪♪



▲買物を楽しまれる山下さん、西内さん、梅田さん



▲八木さん、淡路夢一座の方と

7月22日、中川原ふれあいセンターで開かれた、フリーマーケットに入居者のみなさんが参加され、買物を楽しまれました。ふくろうの郷自治会からも出店し、入居者のみなさんが作った座布団はほぼ完売しました。10月28日に行われる、ふくろうふれ愛まつりに向けても、入居者のみなさんが作品作りを頑張っておられます。ぜひ、ご覧ください。

(相談員 太田 秋菜)

★誕生日のお祝い★



▲きとら津名店にて (7/30)

八木利昭さん(70歳)の誕生日のお祝いは、普段なかなか食べる機会が少ないお寿司を希望されました。食後にはアイスクリームも食べて、特別な一日となりました。

**淡路聴覚障害者
センター便り**

洲本市港2-26
洲本市健康福祉館3階

◆聞こえない方の人生を学ぶ◆

7月28日に、淡路ふくろうの郷で開催した集中講座に、島内3会場の受講生が参加しました。

◆翻弄された人生◆

「旧優生保護法」の下で、夫が強制的に断種手術を受けさせられた勝楽佐代子さん、戦時下、聞こえない子供は役に立たないと責められ暴力を振るわれ、亡くなった母親、そんな父に反感を抱き家出、生活のため盗みをせざるを得なかった黒崎時安さん、長崎の被爆者で聞こえないという者として初めて平和宣言を行った山崎榮子さんから、聞こえないがゆえに、時

それぞれの人生と向き合って
手話奉仕員養成講座・集中講座

**集中講座に参加して
学んだこと 感じたこと**

□ 壮絶な実体験を聞き、心が痛みました。ふくろうの郷は聞こえない方が自ら求めて建設した幸せな場所だと知りました。
□ 聞こえない方の話しは想像以上で、大変衝撃を受けました。歴史や障害を知るといことは、その人を知ることにも繋がると思いました。
□ お話を聞いているだけでも辛かったです。実際に体験された方の苦しみはきっと想像しがたいと思います。今、ふくろうの郷で笑顔で過ごされているみなさんに会えて嬉しかったです。



▲勝楽さんの体験に聞き入る受講生

代に翻弄された人生をお聞きしました。
その後、淡路のろう者である柏木智之さん、伊達美紀さんから紙芝居を使って生い立ちや仕事について学びました。



柏木智之さん



伊達美紀さん

手話を学ぶということは、手話の技術だけでなく、一人ひとりの生きてきた人生を学ぶことの大事さを知ることができた講座でした。

(高木 恵理)

「聞こえないこと」への理解も

手話奉仕員養成講座・短期コースが終了しました。手話を身に付けるだけでなく「聞こえない人達が、社会の中で生きていく上での苦労が想像以上だった」という感想もありました。



▲まとめの手話劇『桃太郎』を熱演中

中途失聴・難聴者の数は年々増加傾向にあります。対象となる方の要望に応じていけるよう、まずは、要約筆記とは何かを学びます。

要約筆記啓発講座開催します

10月6日～11月17日 全6回

- 聞こえの仕組みや制度についての講義
 - ノートテイク等の実技や当事者のお話し
- お問い合わせはセンターまで。

TEL : 0799-24-3850 fax : 0799-26-1175

豆知識



◆福祉タクシー利用助成◆

交通機関の利用が困難で、交通手段を持たない障害のある方に対して、日常生活における交通手段を確保するため、に要する経費（タクシーを利用した時の料金）の一部を助成するものです。

対象となる方は、「身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳保持者」「住民
は、一度センター
に問い合わせて
さい。

これまで申請をされていなかった方、申請の仕方が分からない方、福祉タクシーの
ことを知らなかった
方等、気になる方
は、一度センター
に問い合わせて
さい。



中川原高齢者・障がい者地域
ふれあいセンター



☎656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2
TEL 0799-28-0990
FAX 0799-28-0992



猛暑の中「わくわくフリーマーケット」500人を超えて



流しそうめん

7月22日(日)、「第5回わくわくフリーマーケット in 中川原」を開催しました。
エアコンの効いた室内も含めての催し、連日続く猛暑の中での開催、「はたしてお客さんは来てくれるのか?」と心配もありましたが、延べ500名を超える来客があり無事に終えることができました。



大道芸人淡路夢座

次回は冬頃を予定しております。次は「暖かい室内での快適フリーマーケット」となりますのでぜひともご参加、ご出店のほうお願いいたします。

(濱田 良介)



シン肉・玉ねぎフライの振る舞い

ふれあいセンターとしては今回も中川原連合町内会をはじめ各関係者・団体の皆様とともにふるまい、カレー、かき氷、流しそうめんなどで迎えました。また今回は新たな試みとして大道芸人をお招きし会場中を練り歩いてもらったり、大野わらじクラブによる太鼓演奏を組み入れたりしてみました。皆さんいかがでしたでしょうか?



大野わらじクラブ太鼓演奏



ふれあい広場の休憩



建物内のフリーマーケット



フリーマーケットの風景写真

手話言語の国際デー記念イベント

2018年9月24日(祝・月)

場所：兵庫県中央労働センター

協力金：1,500円



ろう演劇界で活躍する庄崎隆志ほか3人のステージです。長い沈黙を破って訴えた「強制断種」の問題に迫ります

神戸施設建設をめざして

2018.7.31 現在 募金合計
46,682,730円
 (プレート募金 69人)
 目標1億円まで、あと
53,317,270円

8月・9月 ふくろうの暮らし

- 8/20 (月) ふくろうふれ愛まつり実行委員会
- 8/21 (火) 入居者自治会懇談会・おのころ屋パン販売
ふくろう大学絵手紙講座
- 8/24 (金) ふくろう大学料理講座
回想法
- 8/25・26 (土・日) 案山子作り
- 9/1 (土) 地域交流会手話講座
- 9/3 (月) ふくろう理髪店・おのころ屋パン販売
- 9/9 (日) 淡路聴力障害者協会敬老旅行参加
- 9/11 (火) ふくろう大学書道講座
- 9/14 (金) ふくろう工房ちぎり絵
- 9/15 (土) ふくろうの郷敬老会・家族の会
地域交流会手話講座
- 9/16 (日) 施設見学会対応
- 9/18 (火) ふくろう大学絵手紙講座
- 9/19 (水) ふくろう喫茶



(野村 洋子)

新しく施設建設が予定されている神戸市長田区細田町では以前から「ふれあい喫茶」が毎月第4日曜日に開かれ、毎回、歌、手品など楽しい催しがあり地域の高齢者、議員さん、自治会の方などたくさんの方が来られています。

7月29日に見本としてス
 「ぜひ呼んでね」とうれしいお話しても聞かれます。
 また、以前から「淡路の野菜販売」を神戸事業所でやりたいの思いがあり、地域のふれあい協議会の会長さんに相談させてもらうと、「ぜひやってほしい」というご意見を頂きました。
 7月29日に見本としてス
 「ぜひ呼んでね」とうれしいお話しても聞かれます。
 また、以前から「淡路の野菜販売」を神戸事業所でやりたいの思いがあり、地域のふれあい協議会の会長さんに相談させてもらうと、「ぜひやってほしい」というご意見を頂きました。
 7月29日に見本としてス

細田ふれあい喫茶で 8月26日から淡路の 野菜販売が始まります

神戸事業所 安心して暮らせる
福祉施設を!!
共同作業所 神戸ろうあハウス
神戸ろうあハウス デーサービセンター
 〒652-0897 兵庫県神戸市兵庫区駅南通5-4 西高架下16号
 TEL & FAX ... 〇七八・五七九〇七五五

私たちも、地域との交流を大切にしたいと昨年の7月から、行かせてもらっています。回を重ねる中で、聞こえない方のための新しい施設を建設する予定で募金活動のためのイベントを行って「ぜひ呼んでね」とうれしいお話しても聞かれます。
 また、以前から「淡路の野菜販売」を神戸事業所でやりたいの思いがあり、地域のふれあい協議会の会長さんに相談させてもらうと、「ぜひやってほしい」というご意見を頂きました。
 7月29日に見本としてス

ふくろうの郷見学・実習予定

- 8/26 (日) 宍粟市波賀生涯学習事務所様
(しろうくすの木学級 35名)
- 8/27 (月) 龍谷大学短期大学部社会福祉学科
川崎研究室様 24名
- 9/12 (水) 兵通研淡路地域班様 10名
- 9/16 (日) 長野県飯田手話サークル様 20名

ふくろうの郷施設見学会

9月16日(日) 13:30~16:00

法人職員 第2回採用試験

9月22日(土) 9:00~12:00

募集内容：介護職員・農業指導員
事務職員